

| | | | |
|-------|------------|------|-----|
| 登録番号 | 第 00108 号 | | |
| 登録年月日 | 平成24年9月11日 | 登録区分 | 第二種 |

| | | | |
|--------------|--|--|--|
| 名称 (型式等) | 無冷却型 排気ガスタービン過給機 MET560 | | |
| 所在地 | 長崎県長崎市 | | |
| | 三菱重工業株式会社 長崎造船所 | | |
| 所有者 (管理者) | 三菱重工業株式会社 長崎造船所 | | |
| 製作者(社) | 三菱重工業株式会社 長崎造船所 | | |
| 製作年 | 1978年 | | |
| 選定理由 | <p>船舶用大型ディーゼルエンジンにはその効率アップのために過給機が用いられる。</p> <p>1960年代に、粗悪油燃料のために排気ガス中に亜硫酸ガス成分が燃焼残渣と共に水冷却されたガスケーシングに付着し、露点に達した硫酸成分が結露して硫酸腐食を起こす問題が世界各地で多発していた。このような状況に於いて、1965年三菱重工は世界で初めてガスケーシングを水冷却しない完全無冷却の過給機を開発し、腐食問題を解決した。その後世界の大型船舶のディーゼルエンジン用の過給機はこの完全無冷却方式に収斂していった。</p> <p>大型船舶において過給機は25年～30年使われ、過給機も都度分解整備される。一旦船舶に装備された過給機は戻ってくることはないので、本機が整備技術者のトレーニング用に当時流通していた完全無冷却方式の代表的モデルとして製造された。本機は現在でもトレーニング用に使われている。日本発の完全無冷却方式の開発時の設計コンセプトが盛り込まれた、当時のトレーニング機が残されており重要である。</p> | | |
| 登録基準 | 一 一 口 | | |

| | |
|--------|----|
| 公開・非公開 | 公開 |
|--------|----|



| | |
|--------------|--|
| その他参考となるべき事項 | |
|--------------|--|